

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(あけぼの学園高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「強く明るく真心で」を校訓とし、あけぼの学園高校の生徒として一人ひとりが“自信と誇り”をもち、地域に貢献し地域から信頼される学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○学びに向かう力を育み、成果をあげる体験を重ねることで自己肯定感・自己有用感を高め、新しい時代を生き抜く力を持っている。 ○あけぼの学園の生徒として誇りを持ち、地域の一員として積極的に活動することで、地域から信頼を得ている。 ○他の生徒の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。 ○制服や頭髪など高校生としてふさわしい身だしなみを整え、社会で通用するコミュニケーション能力を身につけている。
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像の実現に向け、「チームあけぼの」の一員として自校の存在価値を高めている。 ○授業を大切にして学力向上を図るとともに、生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようと自己研鑽に取り組んでいる。 ○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。 ○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともに魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活 <家庭> ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上、進路実現 <中学校> ○多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現 <地域社会> ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校からの情報提供・発信、地域の担い手育成等、学校の活性化 ○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現 学校の情報提供 <中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供 <地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 人権教育の充実 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供 開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上	<家庭> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言 <中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養、基礎学力の定着 目的意識の向上 <地域社会> 地域の子どものための本校への入学希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力

(3)前年度の学校関係者評価など		○レジリエンスの高揚 ・困難や課題を抱えた生徒が多いので、教育活動の中で生徒の自己肯定感、自己有用感を向上させる取り組みを充実させる必要がある。 ○帰属意識の向上 ・生徒が「この学校で良かった」と思えるように、生徒自らが主体性を持って文化祭や体育祭の行事を運営できるような取り組み及び次年度に繋がるような振り返りの活動を設ける必要がある。 ○キャリア教育の充実 ・自分の将来をデザインできるように、コロナによる影響を最も受けた世代の生徒に対して、十分でなかった就労体験や学びを高校生活で担保していく必要がある。
(4)現状と課題	教育活動	○特別活動等の充実 ・本校は、自己肯定感の低い生徒や就労に対して不安のある生徒等、多くの課題を抱えた生徒が多数いる。それらの生徒の自己肯定感や自己有用感を涵養できるような取り組みを行い、本校で成長し、社会で通用する人材育成を推進する。 ・放課後のクラブ活動を活性化し、心身を鍛えるとともに、自己実現のために目標を持って努力を継続させ、その生徒にとっての達成感を持たせ、自己肯定感の涵養を図る。 ・職場体験実習や就労体験を充実させ、自己の進路について保護者と共に早期から主体的に考えさせるとともに適正についても見極める機会を充実させる。 ・教科指導においても体験的な学びの機会を増やす。 ○様々な課題を持つ生徒への対応の充実 ・生徒の情報共有を目的とする保健委員会を週1回行うことに加え、各分掌・年次においても積極的に生徒情報の共有を行い、学校全体で生徒理解と状況把握に努める。また今後は情報共有だけに留まらず、改善策の確認・検討ができるよう委員会の拡充・発展に努める。 ・面談期間を拡充し、生徒とのコミュニケーションを充実させ、寄り添った指導をさらに行う必要がある。 ・『校内カフェ』を設置するなど、生徒の居場所づくりに努めるとともに、関係機関と連携しながらさらなる活動の充実を図る。
	学校運営等	○学校の特色の周知と地域社会との繋がりの強化 年次や各系列による特色ある取り組みを、保護者をはじめ多くの方々に知っていただけるよう更なる情報発信が求められている。また地域に密着した学校として、地域行事への参加、近隣中学校と連携を図る等、学校の魅力化を一層すすめる必要がある。 ○教職員の資質向上と健康的な生活の支援 魅力ある学校づくりに、教職員の満足度や達成感の向上が不可欠である。多様化する教育課題に対し、教職員研修の一層の充実化を目指すとともに、ワークライフバランスの改善に努める必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○各自の興味や目標に合わせた選択科目を配し、資格取得等への積極的なチャレンジを促し、多様な進路目標の実現を目指した学習を行う。 ○基本的な生活習慣を確立し基礎学力を定着させることで、進路実現に必要な学力を育成する。また、コミュニケーション能力を向上させ、生徒一人ひとりの学校生活を充実させる。 ○ICTの活用を推進し、Society5.0時代を生きるための力を身に付けさせる。
学校運営等	○学校の特色や独自性を十分議論し、地域連携の取り組みや情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。 ○学校行事・分掌業務・部活動指導等について、精選や見直しを行うとともに、同僚性を発揮し、協力・協働して取り組む体制を確立することで、教育活動や学校運営を継続的に改善するための仕組みが機能し、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるようにする。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○多様な生徒が学ぶ中で、共感と協力の精神を大切にし、他の生徒や教職員との良好な関係を築き、学校全体のコミュニティに貢献できる生徒 ○教育の機会を最大限に活用し、自分の能力に合ったペースで学習し、自らの能力を伸ばすために努力できる生徒 ○夢を持ち、目標を設定し将来の自分を想像しながら、自己の進路実現に向けて計画的・継続的に努力できる生徒
-------------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	◇生徒の実態に即した学習指導の工夫と基礎学力の向上を図る。 【活動指標】 ○授業公開及びテスト前補習を年2回実施 ○ICTを活用した授業を全教科で実施 ○生徒による授業評価アンケートを年2回実施 【成果指標】 ○「基礎力診断テスト学習評価ゾーン I ランクアップ」の生徒35%以上(R6:27.9%) ○「レッドカード」前年比減(R6:不認定+未履修 108) ○「学習指導に概ね満足」生徒 80%以上(R6:75%)	(年度末および適宜記載)	(◎) (※)
生徒指導	◇高校生としての身だしなみを整え、基本的生活習慣を確立するために粘り強く取り組む。 【活動指標】 ○全教員による日常的な身だしなみ指導の実施 ○全教員による日常的な見守り(登校指導、休憩時間等の校内巡視)の実施 ○特定の違反者への特別指導の実施 【成果指標】 ○頭髪服装違反が前年比3割減(R6:1400件) ○登校遅刻が前年比4割減(R6:2021回) ○「生徒指導に概ね満足」生徒70%以上(R6:69%)	(年度末および適宜記載)	(※) (※)
安心・安全な学校	◇心身の健康と自他ともに大切にする態度の育成を図り、安心・安全な学校作りを進める。 【活動指標】 ○心身の健康状態の把握と情報共有、教育相談の実施 ○命を考える講演会の実施 ○学校生活やいじめ、人権に関するアンケートを年5回以上実施 【成果指標】 ○人権アンケート「落ち着いた環境で、周りの人と協力しながら安心して生活できている」生徒90%以上(R6:93.3%)	(年度末および適宜記載)	(※) (◎)

キャリア教育・進路指導の充実	◇自己の生き方を主体的に考え、資格取得や部活動に意欲的に取り組み、自己肯定感を高め、社会に貢献できる人材の育成と希望進路の実現を目指す。 【活動指標】 ○「産業社会と人間」「総合研究」やLHR等における「IGABITO 育成事業」と連携した地域学習やフィールドワーク、インターンシップの充実 ○資格取得や部活動の推奨 ○卒業生による進路講話、地元企業による講話の実施 ○個人面談・ガイダンス面談を年4回以上実施、3年次個別の面接指導3回以上実施 【成果指標】 ○「地域社会への関心が高くなった」生徒80%以上 (R6: 70.4%) ○資格試験、検定試験の受検者(延べ人数) (R6:286 人)、部活動加入率 (R6: 64%) 前年比増 ○「希望進路が実現した」生徒100% (R6:100%) ○「進路指導に概ね満足」生徒80%以上 (R6:78%)	(年度末および適宜記載)	(◎) (※)
人権教育の充実	◇様々な人権問題に関心を持ち、人権意識を高め、主体的に行動できる人材の育成を図る。 【活動指標】 ○人権だよりの発行、HRC 風への参加 ○3年間を見通した人権LHRを各年次3回実施 ○生徒の実態を踏まえた人権講演会の実施 【成果指標】 ○「差別をなくすための、知識や行動をみにつけるきっかけになったと思う」「自分がしっかりと学習をしていれば、差別をなくしていけると思う」生徒80%以上 (R6:93%) ○「人権教育に概ね満足」生徒80%以上 (R6:80%)	(年度末および適宜記載)	(※) (◎)
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信 信頼構築	◇保護者や地域への情報発信や連携を通じて、共に歩む学校として信頼構築を図る。 【活動指標】 ○地域への情報発信 あけぼのニュースの発行 年4回以上 あけぼのブログの更新 月1回以上 ○保護者や地域への公開・交流・連携事業 年10回以上 ○学校ホームページの更新 月2回以上 【成果指標】 ○「学校の教育活動がよくわかる」保護者70%以上 (R6:64%)	(年度末および適宜記載)	(※) (※) (※)

チームワーク・組織力の向上	◇分掌や年次の枠を超えた協働により、教職員間の連携を高め、組織力の向上を図る。 ○学校信頼向上のための、学校レクリエーションの実施月1回以上 ○保健委員会を週1回開催、情報共有及び組織として対応する体制の構築 【成果指標】 ○「仕事にやりがい、楽しんでいる」教職員70% (R6:59%) ○「学校経営の一翼を担っていると感じている」教職員80% (R6:70%)	(年度末および適宜記載)	(※)
資質向上	◇教職員は、日頃から自己研鑽に励み、学校の課題解決に向けて他の教職員と協力・協働して取り組む。またすべての教職員に法令遵守の意識の醸成を図る。 【活動指標】 ○学校信頼向上委員会の活動の推進 ○教職員の資質向上のための校外研修への参加年1回以上 ○校内研修会や学び合い活動の実施年3回 ○コンプライアンスアンケート、コンプライアンスミーティング年3回実施 【成果指標】 ○「ハラスメントを許さない職場である」と感じる教職員80% (R6:78%)	(年度末および適宜記載)	(※) (※) (◎)
組織運営働き方改革	◇各分掌の業務の見直し、削減に取り組み。教職員のワークライフバランスの改善の取組を推進し、総勤務時間の縮減に取り組む。 【活動指標】 ○各分掌の業務の洗い出しと分担の見直し ○定時退校日を月1回設定、実施率100% (R6:100%) ○部活動の休養日を週1回設定、実施率100% (R6:100%) ○放課後に開催する定例会議は60分以内設定、実施率100% (R6:100%) 【成果指標】 ○年休取得日数、一人17日以上/年 (R6:15日) ○時間外労働時間、一人平均7時間以内/月 (R6:7.9時間) ○月45時間超、年間360時間超の時間外労働者0人 (R6:0人)	(年度末および適宜記載)	(※) (※◎) (※) (◎)
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)